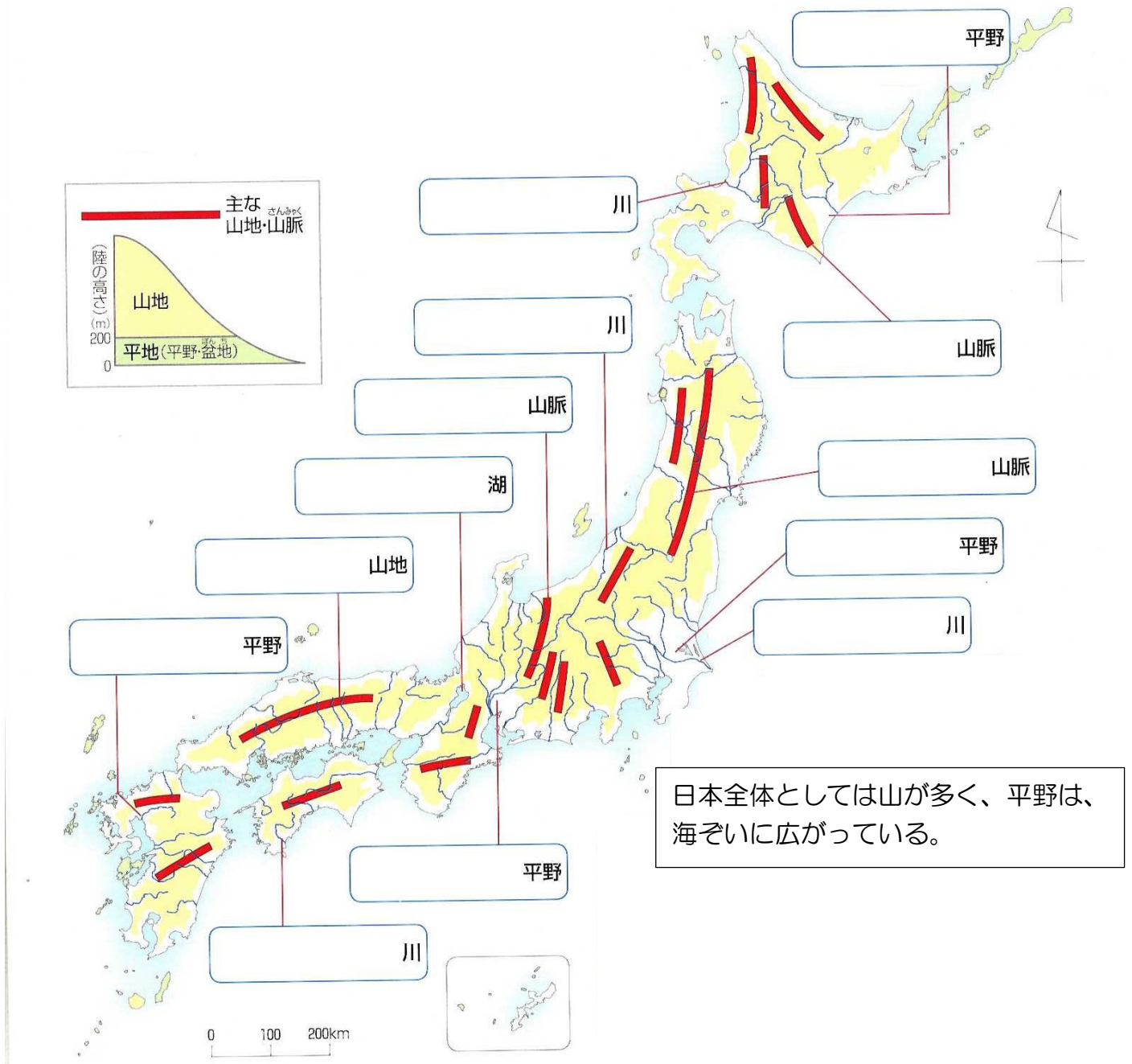


日本の主な山脈、山地、平野、川、湖を地図で確認しよう。

白地図で学習したことは覚えているかな？忘れてしまったら、教科書p20～21や地図帳で確認しよう。



【さまざまな地形】教科書p20を見て () に言葉や数を書きましょう。

- ()・・・山が列のように連なったところ
- ()・・・山が集まったところ
- ()・・・山に囲まれた平地
- ()・・・海に面した平地
- ()・・・平野の中でいちだんと高い平地
- ()・・・陸地に入り込んだ海

標高・・・海面を0mとして測った時の陸地の高さ。

★標高が100m上がると、約()℃下がります。

日本の気候や降水量の特徴についてまとめよう。

日本の気候のちがい(気象庁ほか)



学びのてびき



気温と降水量のグラフを読み取る

①グラフの読み取り方を確かめる。

- ・気温…折れ線グラフと「℃」のめもり
- ・降水量…ぼうグラフと「mm」のめもり

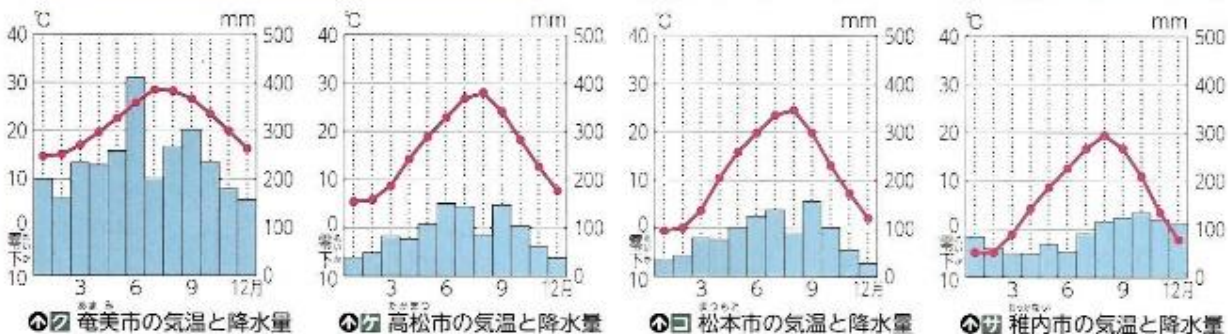
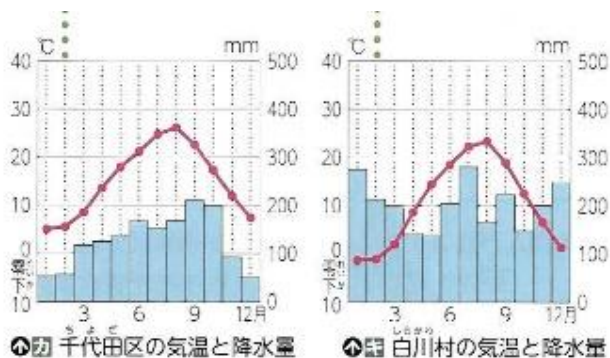
②各地の気候の特色を読み取る。

【一つのグラフから読み取る】

- ・暑い月と寒い月の気温差
- ・降水量が多い月、少ない月

【二つ以上のグラフを比べる】

- ・全体的に、気温は高いか、低い。
- ・全体的に、降水量は多いか、少ない。



【日本のさまざまな気候】教科書p22を見て、()に言葉を書きましょう。

- ・日本の各地の気候を比べてみると、()や、雨や雪のふる量を表す()にも違いがあることが分かる。
- ・同じ地域でも、月ごとに気温や降水量のちがいがあり、春夏秋冬という()の変化が見られる。
- ・6月から7月にかけて、主に北海道以外の地域では、()があり、夏から秋にかけては日本の南側から()が多くやってくる。
- ・季節によって、日本国土にふく風の方角が変わる。この()と、国土の中央に連なる山地のえいきょうによって、冬は()側で雪が多くふり、()側では、かわいた晴天の日が続く。

(夏の季節風)

(冬の季節風)



日本各地の気候のちがいを色分けして、白地図にまとめよう。

グラフと同じ色で、それぞれの気候を色分けしましょう。

